

# 朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

平成31年1月8日(火)

1月号 児童数 889名

TEL:048-461-0410



【学校教育目標】 「心豊かに自ら学ぶたくましい人間の育成」

思いやりのある子 自ら学ぶ子 元気な子

【めざす学校像】 「学ぶ喜びと感動のある学校」

【朝霞六小の合言葉】 ～花あり 歌あり 笑顔あり～



(ず)  
「おのづから人の心も」(「源氏物語」)

校長 木村 直美

皆さまには素晴らしい新年をお迎えのことと存じます。本年が、子どもたち、保護者、地域の皆さまにとって、希望に満ち、輝ける年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、新年にあたり、平安時代、千年以上前の時代の古典文学の「正月」の様子をご紹介します(学習指導要領では、「生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導を重視する」と述べられており、小学校では、古典文学の音読が推奨されています)。

清少納言「枕草子」(第三段)より

「正月一日は、まいて空のけしきも うらうらと、めづらしう かすみこめたるに、世にありとある人は、みな姿かたち心ごとにつくろひ、君をも われをも 祝ひなどしたるさまことに をかし。」

【現代語訳】

〈正月一日は、いつもよりずっと空のようすはうららかで、ういういしい感じで霞が立ち込めている中を、世の中の人びとすべてが、服装や顔立ちを念入りにととのえて、ご主君やわが身を祝ったりしているようすは、ことのほか風情がある。〉(ポプラ社『21世紀に読む日本の古典⑤ 枕草子』)。

紫式部「源氏物語」

「年立ちかへる朝の空のけしき、名残りなく曇らぬ うららかげさには、数ならぬ垣根のうちだに、雲間の草若やかに色づきはじめ、いつしかとけしきだつ霞に、木の芽もうちけぶり、おのづから人の心も のびらかにぞ見ゆるかし。」

【現代語訳】

〈元旦の朝の空は一点の雲もなく、うららかに晴れ渡っていました。小さな貧しい家の垣根の中でさえ、雪の間に若草が緑の色をのぞかせ、早くも立ちそめた春の霞に、木の芽も萌え出し、人の心もひとりでのどかになるようでした。〉(講談社 瀬戸内寂聴 21世紀版少年少女古典文学館5『源氏物語 上』)

清らかな面持ちで、無病息災・五穀豊穰・開運招福などを願い迎える正月は、日本独自の文化が受け継がれてきています。グローバル社会が現実となってきた今、異文化を理解すると同時に、自国が長年醸成してきた文化を振り返り、改めてその意義をしっかりと捉え、伝えていくことの大切さを感じます。子供たちには、せんだち先達(案内役)としての大人の存在が必要です。ある時は、足元を照らし、ある時は目標となる 先を照らす光でありたいものです。子供たちにとって、よりよい年となりますよう、本年もどうぞよろしくお願いいたします。



左:食育指導

(2年)

中央:防災教育

(3年)

右:食農教育

(さくら)

